

08月度例会個人山行報告書		報告者	津田廣一	参加メンバー	CL ; 津田 廣一 利栄子
		報告日	8/7		
山城	東北	山行日	19年 8月 2日 (金)		
山名	鳥海山				

山行目的	東北の名山 (百名山) を登る (99 座目)	コースタイム (天候 : 天気図記号)
------	-------------------------	---------------------

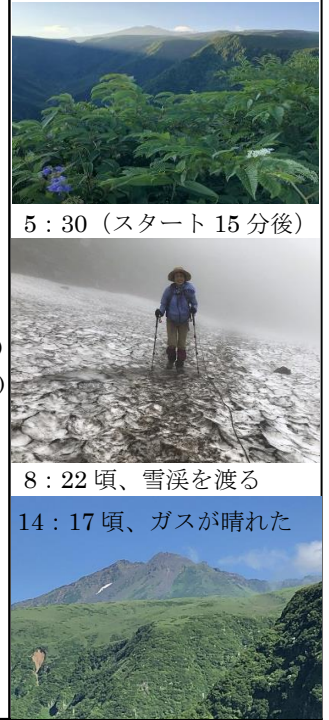
配布先  
総会参加数  
山行: 1  
リーダー  
原紙:  
会事務局

ルート図 (地図を見て正確に)



1/2.5 万地形図 : 鳥海山

- 8/2 曇り
- 5:00 大平山荘発
  - 5:07 鉾立 P 着
  - 5:15 鉾立 P 発
  - 6:15 雪渓 1 本(10分)  
(6:40 賽の河原)
  - (7:15 御浜小屋)
  - 7:30 御田ヶ原分岐  
1 本(5分)
  - 8:00 七五三掛 1 本(5分)
  - 8:55 山頂へ⑦1 本(10分)
  - 10:00 新山(鳥海山)頂上  
(15分)
  - 11:00 御室 1 本(10分)
  - 12:00 文殊岳 1 本(10分)  
(12:30 七五三掛)
  - (12:50 御田ヶ原分岐)
  - 13:05 御浜小屋 1 本(5分)
  - 14:00 尾根渡 1 本(10分)
  - 14:30 鉾立 P 下山



〈山行報告〉東北の名峰、鳥海山。この山も、2年前に登山口まで入ったものの、数メートル先も見えない濃霧と雨で断念した山だ。前の日に、大朝日岳から下山し、登山口近くの宿、大平山荘へ走ってきた。頂上付近が傘雲に覆われ少し嫌な思いがしたが、今朝の天気は晴だ。4時半に起き、車で数分の鉾立登山口へ。“寒いですよ”と、宿の人に聞いていたが、寒さを感じる事無く、Tシャツ1枚でスタート。歩き出す内に、陽が射す様になると暑く感じる様になり、早朝出発は正解と思えた。“天気も午前中はもつだろう”と、思って歩き出したものの、早くも雪渓で1本を取った地点で、ガスが発生し始め、上の方が見えなくなってしまった。地元からの登山者は、「登っても仕方ない」と、次々と降りて行かれるが、“我々は登るしかないよな” “上に行って雲上人になれんかな”と、淡い期待の元に距離を稼ぐ。“ガスってる分、暑くなくていいや”と思い直しては登る。七五三掛(しめかけ)から千蛇谷雪渓コースへ入り、かなり下ってから登り直す。雪渓も目印のロープに沿って渡る。雪渓を抜けてからの急登の登り直しがきつい。9時半にやっと御室へ到着。1本取るか?迷うも、とにかく先ずは頂上の新山を目指す。ストックを折り畳んでザックにしまい、岩場のペンギに沿って、巨岩の上を右へ左へと慎重に登る。格闘する事、30分ぐらいか?新山(鳥海山)の山頂に10時に登頂。ガスの中、周囲は何も見えず。ガスが風で晴れてくれないかと、しばらく待つも晴れそうになく、頂上も狭いので降りる事にする。ペンギの

矢印を頼りに、七高山方向へ少し進み胎内巡りをして先行者を追うも、途中で御室への道が分からない。ガスが少し晴れて、雪渓の向こうに白い丸印を見つけ、休憩中のグループのガイドさんに確認、無事に御室へ迎り着く。外輪山コースへの道を御室の人に確認、下山の途についた。下りてきて2時頃になると、上部のガスが晴れていた。(この時間までは待てないな?と、思いつつ登山口駐車場に着いた)

8月2日10時 鳥海山登頂  
(残念! ガスの中、何も見えず)



〈リーダー所見〉  
ガスの中、慎重に登山道を見極めながらの99座目の登頂であった。鳥海がガスの良く出る山だという事を、改めて実感した。最初と最後に、山の全貌を見せて「天気の良い日に又、来いよ。」と、言われている様に思う山行であった。頂上での景色が見えなかったのは残念だったが、百名山99座登頂で、完登リーチの喜びが味わえた山であった。

確認  
(リーダー)  
津  
19/08/07  
田  
作成  
(報告者)  
津  
19/08/07  
田